

丹後の既成概念を破る、織りと染めを

組合わせた「織染帯」の開発

養父織物

代表 養父 孝昭さん



養父 孝昭さん

平成25年度 採択事業

丹後ならではの帯地・テキスタイルの開発に取り組む

京丹後市大宮町で織物業を営む養父織物では、創業より「職人のこだわり」を持って西陣帯の製造に携わってきました。

「私たちが和装帯地に携わって50年。先代より一般的な西陣帯ではなく、特殊帯にこだわり、同業他社が真似のできない技術の習得に努めてきました。今まで培ってきた技術・技法を駆使して現代風にアレンジした帯地を中心に生産しています」と語る養父さんは、丹後ならではの帯地やテキスタイルの開発に取り組んでいます。

中でも、オリジナル技法の一つである「椀々波織（さざなみおり）」は、古くから西陣に伝わる波箴織（なみおさおり）を元にして、より大胆かつ緻密に生み出した織り技法です。波箴織は横糸を打ち込む箴（おさ）の形を波型にし、直線ではなく一定の波形を作りながら織る特殊な技法ですが、波形に大きな動きを付けることによって横糸の密度を変化させることで、経糸（たていと）と横糸および上に乗る糸との色のコントラストを際立たせることができるようになりました。

「織り+染め」の柄で新しい帯を考案

『基本には忠実に、なおかつとらわれず』をモットーに、伝統の中にも新しい魅力を兼ね備えた生地を和装業界及びテキスタイルの分野に提供していきたい」と語る養父さんは、ある時、丹後織物工業組合が特許を保有する防染加工糸の存在を知ることによって、これを帯に活用することができないかということに思いつきました。

防染加工糸とは、先練（さきねり）糸に撥水加工することで染まりにくくした糸で、これまでは丹後ちりめんのみに使用されていました。この糸を織り込み単色染めをすると、防染された糸の部分が染まらず白く抜けて柄が浮かび上がるという仕組みになっています。

そこに帯の柄や織り方、染まる糸を使うなどのオリジナリティを加えること



開発された織染帯

伝統製品の活用

で、無地の帯に染めをかける染帯ではなく、帯の織り柄とちりめんの加工技術を融合した新しい「織染帯」ができるのではないかと考えた養父さんはさっそく開発に着手します。

「今まで着物は後染、帯は先染という既成概念にとらわれていました。しかし、染帯は単に無地を織るのではなく、染めを前提に考えているちりめんの技術を取り入れた方が染付が、綺麗に染まりやすいということがわかりました。また、従来の手法では表現できなかった立体感のある柄も作ることが可能となりました。」



微妙なほかしの葉が絶妙な味を醸し出します

既存の技術に満足せず、常に進化する技法を追求

開発中にはいろいろな問題にぶつかりますが、養父さんは根気よく検討を重ねていきます。「まず、ちりめん用の糸しかなかったのを帯用に合う糸に改良するため、いろんな人達の力をお借りして帯専用の糸を作りました。糸はでき上がりましたが、その後の染め方がなかなかうまくいきませんでした。帯は柄を作る上でどうしても浮きの糸ができてしまうため、普通に染めるとそこに色だまりができてしまい、色の濃いところと薄いところが出てしまう訳です。どうすれば綺麗に染まるか、これには結構時間を費やしました。」

現在は、インクジェットプリントを利用した方法も採用することで、染めではできない細かい柄を描いたり、今までにないパターンや柄が作れるようになりました。「手染めをやめるわけではなく、手染めの良さ、インクジェットプリントの良さをうまく生かせば、商品の幅がもっと広がるのではないかと考えています。」

また、製織後にボカシ染めなどを施すことで、地の部分の染まりを浅くしながら柄の部分をしっかり染めることができたり、ボカシ以外に柄で色の濃淡を付けるこ

とで、染帯や織帯では表現できない奥行き感のある帯が作れるようになりました。

技術革新とネットワークの構築で、丹後地域の活性化を図りたい

現在、機織りの現場では職人の高齢化と後継者不足が問題となっていますが、養父さんはこのファンドをきっかけに設備の強化を行い、若い人を入れて育成していくことにも力を入れています。「織機は8台だったのを14台に増やし、その分若い人を雇用しました。この仕事はすぐにできるものではないので、人材育成には時間も費用もかかります。しかし、現場の平均年齢が60代後半位ですから、このままではあと5年持つかどうかという状況です。何もせずに誰もいなくなってしまうという事態だけは避けたいですね。」

また、たゆまぬ技術の研鑽と業者間での新たなネットワークを構築することで、丹後独自の商品を自分達で開発・販売する（他産地に依存しない）新しいシステムが構築できないかとも考えています。

「今まで培ってきた技術を守るだけでは、将来的には衰退しかないと考えています。ですから、新しいことにチャレンジすることはこれからも必要ですし、私自身そうすることが楽しいんですよ。」



設備を増強した自社工場

事業概要

養父織物

<https://www.facebook.com/takaaki.yabu>

代表：養父 孝昭

業種：帯をはじめとする織物製造業

創業：1965年4月

住所：〒629-2503 京丹後市大宮町周枳 2211-4

TEL：0772-68-0055 FAX：0772-68-0057